

Racing Topics

★中央競馬ニュース 文・谷川善久★

●皐月賞はロブチェンがレコードタイムで優勝

4月19日(日)におこなわれた皐月賞(G I)では、1番人気に推されたロブチェン(牡3歳/栗東・杉山晴紀厩舎)が勝利、昨年のホープフルSに続く2つ目のG Iタイトルを手に入れました。勝ちタイムの1分56秒5は、2025年ミュージアムマイルの1分57秒0ならびに2024年紫苑Sでクリスマスパレードが記録した1分56秒6を更新する皐月賞レコードおよびコースレコードとなります。

●中山グランドジャンプはエコロデュエルがレコードで連覇

4月18日(土)におこなわれた中山グランドジャンプ(J・G I)では、昨年の同レースおよび中山大障害を制しているエコロデュエル(牡7歳/美浦・岩戸孝樹厩舎)が2着に大差をつけて優勝、連覇を果たすとともに3つ目のJ・G Iタイトルを手に入れました。勝ちタイムの4分49秒0は、昨年自身が記録した4分50秒5を更新するコースレコードとなります。

●小笠倫弘調教師がJRA通算300勝を達成

4月19日(日)の3回中山8日・第7レースではサヨノジャンパーが1着となり、同馬を管理する小笠倫弘調教師(美浦)は、現役68人目となるJRA通算300勝(延べ4893頭目)を達成しました。

★地方競馬ニュース 文・宇田川淳★

●西日本クラシックは地元ミルトイブニング【各地の主要3歳重賞】

西日本クラシック(4月16日、園田、1,870万円)は、先手を取った1番人気のミルトイブニング(牡、父タイセイレジェンド)が2着馬に1秒7の大差を付けて重賞初制覇を果たしました。クラウンC(4月7日、川崎、1,600万円)は、5番手を追走した単勝1.5倍で断然人気のシーテープ(牡、父フリオーツ)がゴール前で差し切り、北海道から大井に移籍後4連勝を達成。東海クイーンC(4月9日、名古屋、1,700万円、牝馬)は、1周目の直線入口で先頭に立った1番人気の浦和からの遠征馬ティーズセラフ(父ルヴァンスレーヴ)が後続に2馬身半差を付けて完勝。日高賞(4月19日、水沢、1,600万円、牝馬)は、5番手から差を詰めた地元岩手の重賞5勝馬セイクリスターナ(父タリスマニック)が、逃げ粘る北海道からの遠征馬トリップスをゴール寸前で捉え、単勝1.6倍の支持に応えました。ノトキリシマ賞(4月19日、金沢、1,500万円、牝馬)は、3番手から4コーナー手前で抜け出した3番人気のケーズコマクサ(父フィレンツェファイア)が5馬身差の圧勝を収めています。

●ロックターミガンらが参戦、4月29日の羽田盃(大井)

羽田盃(Jpn I、3歳、4月29日、大井、1,800万円)は、京浜盃を楽勝したロックターミガンが中心、以下雲取賞馬リアライズグリント、ブルーバードCを制し京浜盃2着のフィンガー、雲取賞2着馬トリグラフヒルまでが争覇圏内と考えられます。

★海外競馬ニュース 文・秋山響★

●G1オールエイジドS~バイヴァハトが優勝

現地4月18日にオーストラリア・ニューサウスウェールズ州のランドウィック競馬場で行われたG1オールエイジドS(2歳上、芝1,400万円)はバイヴァハト(牡3歳、父ピヴァーク)が逃げ切り勝ち。0.92馬身差の2着に3月のG1クールモアクラシックからの連勝を狙ったラズーラが入って、C.ウォーラー厩舎のワンツーフイニッシュとなりました。勝ったバイヴァハトは昨年9月のゴールデンローズ(芝1,400万円)でG1初制覇。その後は前走3月のG1ジョージライダーS6着まで4連敗となっていたが、ここは初騎乗のN.ローウィラー騎手を背に巻き返しました。

●G2オークローンH~米年度代表馬ソヴリンティは2着

4月18日にアメリカ・アーカンソー州のオークローンパーク競馬場で行われたG2オークローンH(4歳上、ダート1,800万円)はI.オルティスJr.騎手が騎乗したホワイトアパリオ(牡7歳、父レースデー、S.ジョセフJr.厩舎)が直線で抜け出して優勝しました。昨年の米年度代表馬で、昨年8月のG1トラヴァーズS優勝以来のレースとなったソヴリンティは勝ち馬より0.9馬身重いハンデで逃げて2馬身差の2着でした。勝ったホワイトアパリオは3歳時にG1フロリダダービー(ダート1,800万円)、4歳時にG1BCクラシック(ダート2,000万円)、G1ホイットニーS(ダート1,800万円)、そして6歳時にはG1ペガサスワールドC(ダート1,800万円)に優勝。昨秋のG1BCダートマイルは獣医師による歩様に対する懸念を受けてレース直前に出走取消になりましたが、前走今年1月のG1ペガサスワールドCで復帰(2着)していました。